

式 辞

平成30年度
入学式

校庭の木々の緑が目に見えて濃くなるとともに、草花も一斉に咲き出すこの良き日に、群馬県議会議員・中島篤様を始め、多数のご来賓のご臨席を賜り、ここに第56回入学式を挙行できますことは、本校にとってこの上ない喜びであり、心よりお礼申し上げます。ただいま名前を呼ばれました普通科496名、保育科95名 計591名の皆さんの入学を、在校生・教職員一同心から歓迎します。

さて、本校は1963年(昭和38年)に創設され、県内でも屈指の伝統校であります。野球・サッカーの全国優勝をはじめとして、幾多の人材を輩出してきた歴史を持っています。その56ページ目に皆さんの名前が刻まれることに誇りと責任を感じて、高校生活を送って欲しいと思います。

前橋育英高校は、生徒の学びと進化(成長)にとって何が必要かを第一に考える『スチューデント・ファースト』の学校です。生徒一人ひとりの「学びたい」「変わりたい」「成長したい」といった気持ちをサポートし、実現に導くことを第一に考えている学校です。

新入生の皆さん、皆さんが成長、進化するためには、必要なものがあります。それは我々教師と皆さんが持っていなければならない大事なものです。イギリスの元首相ウィンストン・チャーチルの言葉で、「Never・Never・Never・GiveUp」という名言があります。実にシンプルですが、力強い言葉です。「決して決して決して諦めない」本当にすばらしい、そして重みのある言葉です。進化・成長するまで諦めない、やめてしまえばそれは失敗です。くじけることなく繰り返していく、決して諦めず進化・成長するまで続けるのです。

それでは、どうすれば「進化・成長するまで諦めない」ことが出来るのでしょうか。私たちが諦める原因は、目標に対する自分の決意がもろくて弱いものだったのか、または途中の障害や困難があまりにも大きいものに見えて、進化・成長することは、不可能とってしまうかのどちらかです。一応の決意はしていても、もろくて弱いものであり、本音のところでは「自分には無理だ」とかあるいは、今のままでいいと思ってしまう。つまり本音の部分には現状の居心地のいい場所にあるのだと思います。居心地のいい場所にずっと居ればおそらく進化・成長することは無理なのです。とすれば居心地のいい場所を現状から「目標を達成した将来」へ移行することができれば「やらずにはいられない」という意欲の塊のようなものが湧いてくるのではないのでしょうか。その目標は「できることが自分らしい」と思えるようになり、そこには、疑いや迷い、不安、恐れなど生じる余地はなくなり「諦める」という気持ちがなくなるのではないのでしょうか。「諦める」ことがなくなるということは「必ず進化・成長する」と考えるということになり、それを単なる願望から「強固な信念」にしていけば良いのです。

前橋育英は、この進化と成長をサポートしていく学校です。生徒一人ひとりと向き合い「やる気」を引き出し、無限の可能性を伸ばしていきます。

最後になりましたが、保護者の皆様に一言ご挨拶申し上げます。本日はお子様のご入学本当におめでとうございます。高校の三年間は、人生の方向を決定する大事な時期であり、悩み苦しみの最も大きい時期でもあります。そんな大切な三年間を前橋育英高校に預けて頂き感謝しております。私たち教職員は、お様が、自らの生きる道を、自らが切り開いていけるよう全力を尽くして参ります。

生徒第一主義『スチューデント・ファースト』の前橋育英で、楽しく満ち足りた高校生活を送られますことを心から期待して、式辞といたします。

平成30年4月9日

学校法人群馬育英学園 前橋育英高等学校

校長 山田 耕介